［成果情報名］エドワジエラ・イクタルリフリーのアユ種苗生産

［要　　約］エドワジエラ・イクタルリ（以下E.i.）陽性親魚から得られた種苗はふ化後及び成熟期の保菌検査で陰性であった。アユ親魚がE.i.を保菌していても、親魚から卵内へ感染しない可能性が高いことが示された。

［部　　署］山形県内水面水産試験場生産開発部

［連　絡　先］TEL 0238-38-3214

［成 果 区 分］政

［キーワード］アユ、種苗生産、エドワジエラ・イクタルリフリー種苗

---

［背景・ねらい］

県では、天然遡上アユを増大させる施策の一環として、河川でアユ親魚を採捕して種苗生産に用いているが、平成22年度に県内河川でE.i.を保菌したアユが確認されたため、種苗生産におけるE.i.の防除が必要とされる。そこで、陽性親魚から得られた種苗を成熟期まで隔離飼育後に保菌検査した結果を示し、今後の防疫対策に役立てる。

［成果の内容・特徴］

1. E.i.を保菌する親魚から得られた種苗を成熟期まで追跡し、保菌検査を行った。

2. 採卵に用いた親魚の凍結検体について、検査マニュアルに従って保菌検査を実施した結果、雌42尾中5尾、雄31尾中7尾で陽性であった（表１）。

3. これらの親魚から得られた卵について、卵管理中にブロノポール100ppm-30分の消毒を4回実施した後、180尾のふ化仔魚を採取し、60尾を１ロットとして3ロットの検査を実施した。取り上げた仔魚をホモジナイズしSS液体培地中に懸濁後、25℃で24時間培養を行いPCR検査に供した結果、3ロットいずれも陰性であった（表2）。

4. この種苗を栽培漁業センターの屋外水槽で隔離飼育し、成熟期に再度保菌検査を実施したところ、60検体すべて陰性であった（表3）。

5. このことから、アユ親魚がE.i.を保菌していても、親魚から卵内へ感染しない可能性が高いことが示された。

［成果の活用面・留意点］

1. 卵消毒や洗浄、採卵室と飼育池の隔離等の防疫対策を実施することにより、親が保菌していてもE.i.フリーの種苗生産を実施できる可能性が示された。

2. 今後、卵消毒や洗浄のエドワジエラ・イクタルリ防除効果について詳細に検討を行う。

［具体的なデータ］

表 1　アユ採卵親魚の保菌検査結果

| | 陽性数/検体数 | |
|---|---|---|
| ♀ | 5/42 | (11.9%) |
| ♂ | 7/31 | (22.6%) |

表 2　陽性親魚由来の仔魚の保菌検査結果

| 陽性数/検体数 |
|---|
| 0/3 |

表 3 隔離飼育後の成熟期に実施した陽性親魚由来種苗の保菌検査結果

| 陽性数/検体数 |
|---|
| 0/60 |

［その他］

研究課題名：養殖衛生管理体制整備、アユ新感染症緊急対策
予算区分　：受託
研究期間　：平成 22・23 年度
研究担当者：大川恵子、粕谷和寿
発表論文等：平成 24 年魚病学会春季大会発表予定